委員から寄せられた意見・感想

資料１－１、１－２「神奈川県におけるいじめの状況について」

○　重大事態調査などをしていると、未だ担任が一人で背負い込んでいるケースも見られる。こうした事態を防ぐために、各校のいじめ防止組織を機能させるなど何らかの取組みを行うとよいと思う。

○　いじめの認知件数が令和２年度に下がったのは、解消に向けた継続的・組織的な取組が功を奏したものと思う。ただ、コロナ禍で子どもたちの集団活動の機会が減少した影響があったのではないかと考えられる。

○　いじめの解消に向けた取組みによって、４ヶ月足らずにその成果が出ているのは素晴らしいと思った。いじめが解消されたことで学校が安心して通える場になると思う。

○　コロナのなかでの生活様式が変化するなかで、人間関係にも大きく影響が出ていることは確かだと思う。その結果がでてくるのはこれからと見据え、気を引き締めて見守る必要がある。

○　ICT 活用についてはより一層期待が高まるなか、いじめの実態も変化している。モラルやスキルの指導ももちろん大切だが、いじめ課題の根底にある個性や多様性を認め合う心を育てる取組みが重要と感じる。

○　令和２年度になってから、いじめの認知件数が減少したのは喜ばしいことだが、代わりに増加したのはＳＮＳを介したいじめである。いじめが表に出ない分、パソコンや携帯電話を用いた誹謗中傷や嫌なことをされたりすることが増えたのだと思う。情報を使う際のモラルやスキルなど、より一層指導していくことを望む。

○　今後はコロナ禍で人間関係づくりが難しくなった環境もあると思われるので、しっかりとアンケートなどで情報収集し、見逃さない取組みを引き続きお願いしたい。

○　いじめの認知数の動向は、コロナの影響もあり、さほど増加しているとは言えないが、相談内容を精査してみると、必ずしもいじめが減少しているということの証査にはなっていないと思う。むしろ、このコロナが終息し、平常に戻った時、現在の小中学生が受けている欲求不満などを鑑みると、一気にいじめが増加するのではないかと危惧している。

○　いじめ解消に向けた継続的・組織的な取組みが定着したことは望ましいことであり、教育現場での先生方の粘り強い取組みに敬意を表したい。

○　いじめ認知件数が減少したということは喜ばしいことであるが、その反面、コロナ禍で様々な抑制や変化により、知らず知らずのうちに溜め込んだストレスを子どもたちが学校内外の場で、今後どのように発散していくのか注視していく必要もあると思う。

資料２「令和２年度「ＳＮＳいじめ相談＠かながわ」実施結果について」

○　ＳＮＳを使ったいじめは、子どもだけの世界で行われることがほとんどで、大人が気付きにくく、子どもの側から相談がなければ見落としがちである。そういう中、最初は匿名であっても、まず相談につながることに意味があると思う。

○　大変効果的でよかったと思う。ぜひ拡充継続していただきたい。ただ、生徒は自分がいじめられたり、孤立させられたりしていることを認めるのはたいへん辛いことなので、いじめと意識していないこともある。標榜をいじめや友人関係の相談として相談しやすくできるとより有用と考える。

○　ＳＮＳによるいじめ相談の実施については、多面的な視点から複数の教員で継続して対応することができる学校現場での教育相談とはちがい、電話での相談と同様に局面における相談員の的確な捉え方が求められるため、重点的な取組みにあげられているとおり、相談員のスキルアップのための研修等が重要であると感じる。

○　令和２年度から、実施期間を通年にしたことが非常によかった。ＳＮＳを通じて匿名で相談できるということ、また、相談者の肯定的なアンケート結果からも、ぜひ来年度以降も継続して実施していただきたい。

○　ＳＮＳによる取組みは、匿名性の中で相談したいという児童・生徒には有意義である。悩み事が改善することが最も望ましいことではあるが、改善しなくても誰かに聞いてもらえた、真剣に対応してもらえる場所があると知ることで安心できるのではないか。